MONEY CLIP

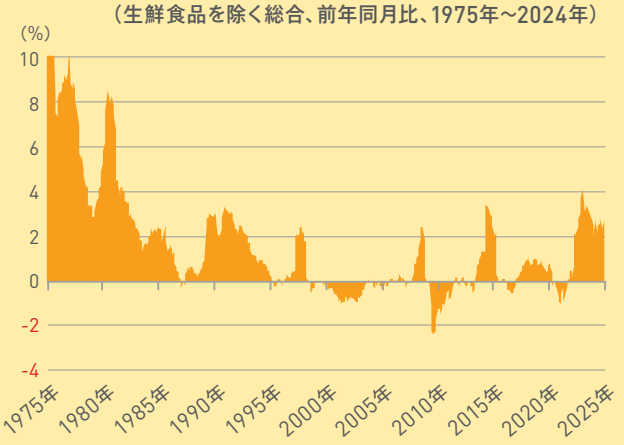
続く物価上昇
考えたい、守るための運用

物価上昇が再び勢いづいてきている。2024年12月の消費者物価指数は変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が、前年同月と比べて3.0%上昇。2023年8月以来、1年4カ月ぶりに3%台となった。円安などの影響を和らげるための政府による電気・ガス代の補助が終了したことで、エネルギー価格が上昇した影響と見られる。東京23区の1月速報値も前年同月比2.5%の上昇で、特にコメ類は上昇率が70%を超え、過去最大。鳥インフルエンザの影響による卵の卸売り価格の高止まりや野菜の高騰も報じられている。帝国データバンクが毎月公表している「食品主要195社」価格改定動向調査（2025年2月）によると、2025年累計で8,867品目に及ぶ値上げが実施または予定されており、前年同時期に比べ9割増のペース。物価上昇はまだ続きそうだ。

物価の上昇は、反対側から見れば現金の価値の下落だ。たかだか2～3%と思うかもしれないが、その「複利効果」は大きい。現在の1億円の20年後の価値は、2%の物価上昇が続けば6,730万円程度。3%ではおよそ5,430万円とほぼ半減してしまう。そして日本はモノを海外から買わないと生き続けられない国だ。

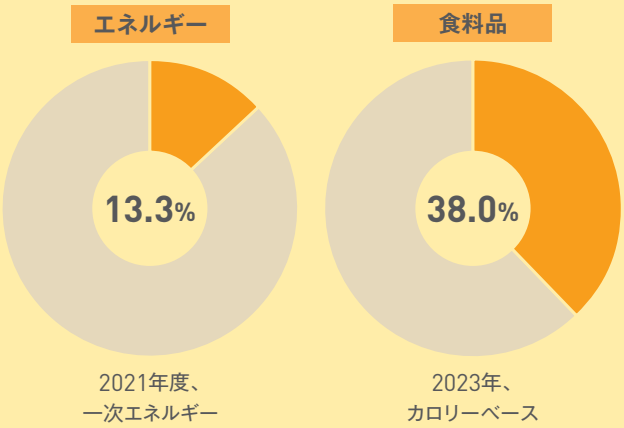
資産運用は、資産を「増やすため」という考えの方も多いだろう。しかし日本でも物価上昇が定着すると想定するのであれば、守るための運用を考える必要がある。資産運用の方法論は目的によって異なる。信頼できるパートナーに一度相談してみてはどうだろうか。 M

図表1 過去50年間の物価上昇率の推移
（生鮮食品を除く総合、前年同月比、1975年～2024年）



（出所）総務省統計局のデータをもとに当社作成

図表2 日本の自給率



（出所）資源・エネルギー庁、農林水産省のデータをもとに当社作成

資産運用のことなら
三菱UFJモルガン・スタンレー証券へ

証券会社はリスク性商品の専門家です。
一般的に株式のようなハイリスク・ハイリターンの商品のイメージもありますが、低リスクの商品についても数多く取り扱っています。
まずは、お客さまの運用に関するお考えをお聞かせください。
適切な商品をご提案します。